

「ターザン REBORN」 ★★★★★

2016 (平成28) 年7月31日鑑賞<TOHO  
シネマズ西宮OS>

監督・製作総指揮：デイヴィッド・アレクサンダー・スカルスガルド

ターザン

ジョン・クレイトン (英日貴族)

ジョージ・ワシントン・ウィリアムズ (アメリカ人ジャーナリスト) / サミュエル・L・ジャクソン

ジェーン・クレイトン (ターザンの妻) / マーゴット・ロビー

レオン・ロム (コンゴ自由国の官吏) / クリストフ・ヴァルツ

首長ムボンガ / ジャイモン・フンスー

首相 / ジム・ブロードベント

2016年・アメリカ映画・110分

配給 / ワナー・ブラザーズ映画

◆「ターザン」といえば、「アアア」と叫びながらジャングルの中をつるにぶら下がり飛ぶイメージが定着している。そして、私たち団塊世代であれば誰でも子供の頃にそんな映画を観たはずだ。しかし、よく考えてみれば、ここ何十年もそんな映画を観た記憶はない。

近時のハリウッドでは、『スターリングラード』(00年)、『コールド・マウンテン』(03年)のジュード・ロウや、『007』シリーズ第21作『007カジノ・ロワイヤル』(06年)、第22作『007慰めの報酬』(08年)のダニエル・クレイグ等、イギリス出身のカッコいい俳優が目立っていた。しかし、イギリスがEUから離脱してしまった今、スウェーデン生まれの長身で色白の美形がターザン役に。

◆アフリカ中部には「コンゴ民主共和国」という国があるが、同国はかつてベルギー王・レオポルド2世(1835年~1909年)の私有地「コンゴ自由国」として統治が認められていたらしい。象牙、天然ゴム、ダイヤモンドなどの採取労働を現地住民に課し、悪どい貿易を行っていたレオポルド2世に仕える官僚で、コンゴ自由国における「悪どい実務」を取り仕切っている男が、本作に登場するレオン・ロム(クリストフ・ヴァルツ)。逆に、レオポルド2世のそんな悪業を告発したのが、本作に登場するアメリカ人のジャーナリスト、ジョージ・ワシントン・ウィリアムズ(サミュエル・L・ジャクソン)だ。

本作はコンゴ自由国を舞台としたそんな歴史上の物語のうえに、突如全く架空の人物ターザンを登場させることに・・・。

◆ロンドンで美しい妻ジェーン(マーゴット・ロビー)と共に裕福な暮らしをしている、英国紳士のジョン・クレイトン(アレクサンダー・スカルスガルド)は、今ウィリアムズの説得に応じてジェーンと共に再びコンゴ自由国の中に入ろうとしていたが、それはレオポルド2世の悪業の有無をチェックするため。ジャングルの中に入ったクレイトンが首長のムボンガ(ジャイモン・フンスー)たちと旧交を温めるシーンや、かつてジャングルを支配する王だったターザンとして、旧友の(?)ライオンと頼りすぎるシーンは興味深い。

そんなホンワカした雰囲気導入部がしばらく続くが、ターザンたちがここにやってきたのは、すべてレオンが仕組んだワナ。それが明らかとなり、族長たちが殺され、ジェーンも捕らわれの身になってしまうと・・・

◆不死身のターザンはウィリアムズと共に難を逃れることができたが、レオンがレオポルド2世と共に仕組んだ計画は、大がかりかつ悪辣なものだった。これに徒手空拳で立ち向かうのは至難の業だが、さて、そこから見せるターザンの活躍とは・・・?

本作を鑑賞するのに理屈は無用。結末もハッピーエンドが設定されているのは当然だ。クソ暑い日が続く中、冷房のタップリ効いた快適な劇場で童心に戻り、じっくりとターザンの活躍を楽しみたい。